

ミュンヘンだより

NO.1
2012.8.14

ミュンヘンに赴任して5ヶ月が過ぎました。4月の始業式・入学式に始まり、参観日、運動会、校外学習とたくさんの行事を行いながら、新しい環境を体感しています。7月には当地で行われるヤーパンフェスト(日本祭り)にも参加し、会場運営のお手伝いをしたりもしました。7月20日に1学期の終業式を迎え、やっと少し落ち着いて自分のまわりを見渡す余裕ができましたので、これまでの生活を振り返りながら、ミュンヘンやミュンヘン日本人学校について紹介します。

2012年8月14日

ミュンヘン日本人国際学校

山本 泰

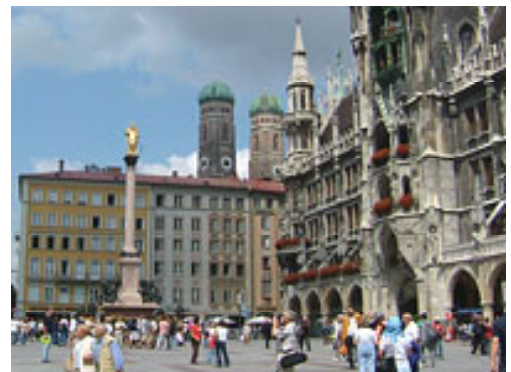
ミュンヘンについて

ミュンヘンは人口約138万人で、ベルリン、ハンブルクに次ぐドイツ第三の都市です。BMWやジーメンスなどドイツを代表する企業が本拠を構える産業都市、ドイツ最大級の大学やハイレベルの研究機関を持つ学術都市として栄えています。また、ドイツ国民が最も住みたい街に選ぶほど治安の面でも安全な街です。

市の東側にアルプスを源流とするイザール川が流れ、南方約100kmにはアルプスの山々があり、そこには多くの美しい湖や森があります。また、ドナウ川まで約100km、Schwarzwald(黒い森)まで約200kmと恵まれた自然環境の中に位置しています。

天気が変わりやすく短い春秋、湿度が低くしのぎやすい夏、寒くて長い冬というのが四季の特徴です。緯度が高いために夏は朝4時頃から夜10時頃まで明るいのですが、冬は朝7時過ぎまで夜が明けないう夕方4時頃には暗くなります。例年、積雪はそれほどありませんが、雪が降り続く日が続いたり日中の気温がマイナス10数度の日が続いたりすることもあります。

市の中心部 Marienplatz には平日でもたくさんの観光客が訪れ、近くの広場で行われる Markt(朝市)は毎日買い物客でごった返しています。市内にはたくさんの美術館や博物館、歌劇場などがありますが、中でも Alte Pinakothek は世



界の6大美術館に数えられる美術館で、ルーベンスやデューラーの作品などが多数展示されています。



さらに、S Bahn（郊外電車）に乗って少し足を伸ばせば、ニンフェンブルク城やダッハウ強制収容所跡などの歴史的な遺跡もあります。また、毎年秋に行われる Oktoberfest は、世界最大のビール祭りとして有名で、2週間で600万人以上の人を訪れ700万リットルのビールが飲まれます。

ミュンヘン日本人国際学校について

本校は、1994年にドイツ国内5番目の日本人学校として開設し、2003年3月新校舎を建設移転しました。

校舎は州・市当局の指示のもと、防火・安全面にも十分配慮した最新設備となっています。また、外壁・屋上も周囲の環境に調和するように、天然石を貼り付けたり樹木を植えたりしています。さらに体育館・芝生の中庭も備え、恵まれた環境の中で子ども達は思い思いの遊びに興じて休憩時間を過ごしています。



児童生徒数は、小学部138名、中学部26名、計164名です。保護者の仕事の関係で毎月のように編入・退学がありますが、子どもたちは海外にいる寂しさや不安等をまったく感じさせず生き生きと学校生活を送っています。

ドイツにある日本人学校としての特性を生かすため、小学部1年から中学部3年まで現地理解の手立てとしてドイツ語を週3～5時間学習しています。そのため小学部の1年生でも6時間授業の日が週3日あり、中学部では週2日が7時間授業です。また、ドイツ語の時間や総合的な学習の時間を利用して、現地校との交流や施設見学など行い、子どもたちの国際感覚の育成に力を入れています。



体育科の授業は、専用のグラウンドを所有していないために現地のグラウンドを借用して行うことがあります。体育館での授業や、年間7回程度現地校プールや公営プールを借用してプール学習も実施しています。毎年5月下旬～6月上旬には、現地の大きなグラウンドを使って小中合同の運動会も行っています。